



伊賀組紐

忍者のまちで、伝統工芸み〜つけた。  
伊賀組紐を取材してきました。

◎伝統の技を広める

奈良時代以後に日本で作り始められた組紐は、巻物や刀、甲冑などの紐に利用されてきました。明治維新の廃刀令により、武具から帯締めに変えて、用いられるようになりました。

江戸で組紐の技術、技法を明治35年、初代廣澤徳三郎が習得して、この地域で広めたのが、伊賀組紐の始まりです。代々受け継がれてきたこの技術は、昭和51年に国の伝統工芸品に指定され現在に至っています。今回はこの伝統技術を見学させていただきました。



▲ちょっと体験させて頂きました



小野 レポーター



▲まちかど博物館入り口、風になびくのれんが涼しげでした



▲館内には、組紐グッズがいっぱい



▲サイフ、ネクタイなどの小物がありました



▲プロの技術を目の前にスゴイ!の一言 三代目徳三郎さんはこの道40年以上だそうです

◎職人技が光る実演

伊賀組紐の最大の特徴は、伸縮性があることです。硬くて伸びない紐に比べて、適度な柔らかさがある伊賀組紐はよく締まるので帯締めとして使うと着くずれしにくく、食後お腹が膨らんでも自然と調整されます。

なんと帯締めを5cm織るには、200回の動作が必要です。糸を動かして「トントン」とヘラでたたいて編みこんでいく。表面を平らにすることは想像以上に難しく、素人と職人とは音の違いが技の違いとなるそうです。丁寧な仕事で、花や動物の柄を編みこんでいくことはまさに職人技でした。

帯締めだけでなく、伊賀組紐のネクタイやベルトはとても涼しげでお洒落です。大切な人にこんな粋なプレゼントはいかがですか。



**まちかど博物館 廣澤徳三郎工房**  
 ■所在地 〒518-0878 三重県伊賀市上野西大手町3635-1  
 ■お問い合わせ先 TEL.0595-21-1127  
 [URL] <http://www.ict.ne.jp/~toku-3/>

Line Break (ラインブレイク)

代表 橋爪 勇樹  
 (生物資源学部資源循環学科 3年)  
 [HP] [http://suzuka.cool.ne.jp/linebreak/index\\_pc.html](http://suzuka.cool.ne.jp/linebreak/index_pc.html)



▲奈良県下北山村ヒュッテにて

活動は月3~4回 主に土曜日  
 海、川、湖、自然あふれる場所  
 夏季:釣り・キャンプ / 冬季:スノーボードなど

今年、20周年を迎えたLine Break (ラインブレイク)は、釣りを中心にアウトドア活動を楽しむサークルです。

活動は主に土曜日で、琵琶湖等を舞台に「ブラックバス釣りトーナメント」を開いて仲間たちと腕を競い合っています。

11月の大学祭では、一大イベントとして、自分たちで釣ってきた約200種類の魚を展示する「水族館」を開き、昨年は2日間で4千人もの人々にぎわいました。地域のみなさん、今年もぜひ「水族館」に遊びに来てください!!おもしろい魚に出会えますよ!!



▲2008年 大学祭



◆2009年病院夏祭り

長期の入院生活を強いられた子どもたちは大きなストレスを抱えています。私たち「ぞくよん\*」は、病氣と闘う子どもたちが少しでも病氣のことを忘れて、楽しい時間を過ごせるように病院内の夏祭りを企画したり、工作や料理を一緒にしています。

また、今年の1月から始めた、付き添いで大変なお母さんたちにコーヒーを提供する、という新しい試みは、大変好評です。今後も、子どもたちが生き生きとした笑顔でいられるように活動を続けていきたいと思ひます。



\*ぞくよん：以前「よんちゃんず」として活動。2004年に「繞・よんちゃんず」→「ぞくよん」(略)となり新たに活動をスタート



活動は月7~8回  
 プレイルーム (医学部附属病院5階小児病棟内)

代表 橋本 佑樹  
 (医学部医学科 3年)  
 [HP] <http://zokuyon.pupu.jp/>

ぞくよん

ベトナム料理、焼き上がり☆